

## シンポジウム「仙台・宮城の自然環境の成り立ちとその管理方法」

日 時： 2019年12月14日（土）10:00～16:10

会 場： 東北学院大学 土樋キャンパス ホーイ記念館 H304 教室  
〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目 3-1

主 催： 日本第四紀学会

共 催： 日本ジオパークネットワーク

### 目 的：

地域の自然環境は、過去の地球の変動のなかでつくられてきたものであり、その過程を知ることは、現在の自然環境の適切な管理の方法を考えるうえで必須のこととなります。特に第四紀といわれる約 260 万年前から現在までの環境の変動は直接的に現在の自然環境の成立に影響しています。本シンポジウムでは、東北地方を題材として、これまでの研究で明かにされてきた、様々な自然環境の成立過程やその変遷について理解を深めます。そして自然環境の保全と活用の活動をすすめている東北各地のジオパークから、その実践について報告していただき、今後のより良い自然環境管理の方法を考えていきたいと思えます。

### プログラム：

#### 趣旨説明

10:00-10:30 目代邦康（東北学院大学）：自然環境の保全と活用に対するの第四紀学の役割

#### 第一部 第四紀における仙台・宮城の自然環境の成立と、人との関わり

10:30-11:00 松本秀明（東北学院大学）：仙台平野の地形と近年の海岸後退の実態

11:00-11:30 嶋田哲郎（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）：宮城県の湿地環境の保全

11:30-12:00 西城 潔（宮城教育大学）：丘陵地の地形の成り立ちと、人の里山の利用

#### 第二部 ジオパークからみる自然環境の保全と活用、サイエンスコミュニケーション

13:15-13:45 佐藤英和（栗駒山麓ジオパーク）・宮城豊彦（東北学院大学）：災害遺構としての地すべり地形の保全と防災活動

13:45-14:15 石川 智（下北ジオパーク）：ジオパークにおける海岸清掃活動の意義と広がり

14:15-14:45 岸本誠司（鳥海山・飛島ジオパーク）自然環境の保全と地域の内発的発展

14:45-15:15 伊藤健太郎（ゆざわジオパーク）：ジオパークは、地球科学についての「科学コミュニケーションの場」になりうるのか

#### 第三部

15:20-16:10 総合討論